

上智大学

インターン

シップ科目

# 皆さんは インターンシップと聞いて 何を思い浮かべますか？

関心のある企業に一日出向いて社員の話を聞いたり人事担当者の前でプレゼンを行ったりする就職活動でしょうか。上智大学が提供するインターンシップ科目は、これらと異なり、企業や公的な機関の取り組みを現場で知り参画することで、グローバルな社会の構造と実態を理解し自身の関わり方を考える機会となります。人、もの、サービスの移動が加速化し多様性と包摂性が重視されている現代社会では、主体性や変化適応能力、人間関係形成能力といったコンピテンシーが求められます。多様性に基づき成り立つグローバル社会で生きていくための実践的学びを得るのが本科目の目的です。

本学の制度を活用してインターンシップを体験できる場は多様です。いわゆるグローバル企業だけではなく、世界の貧困や人道問題に取り組む国際機関やNGO/NPOなども含みます。また、近年は、海外のインターンシップ機会も生まれています。これらの場では、専門知識や経験を持つ人々の指導を得ながら課題解決に取り組めます。インターンシップを通じて、皆さんは「なぜ大学で学ぶのか、どう学ぶのか」そして「将来何をしたいのか」といったことに対する回答を得るかもしれません。

インターンシップ期間は受け入れ機関の都合もあるため、募集時期や応募要件に注意する必要があります。大学生活のどのタイミングでインターンシップを経験するか、初年次から良く計画し準備する必要があります。この冊子を読んで、まずは説明会に参加してみましょう。

グローバル教育センター長

小松 太郎 教授(総合人間科学部 教育学科教授)



# インターンシップ科目のご案内

本学と協定を結んだ国内外の企業、国際機関、団体などで、インターンシップをすることで、全学共通科目の単位が付与されます。

[事前講義]～[インターンシップ]～[成果発表]を通じて、グローバル人材に必要とされる素養を総合的に学修し、経験的に学ぶ科目です。科目により、実習先や期間は異なります。

科目名	実習期間	開講学期	単位	対象学年	募集時期
グローバル インターンシップ (短期)	短期 2-6週間	春学期(8-9月) 秋学期(2-3月)	2単位	2年生以上	4月 10月
経済同友会連携 インターンシップ		春学期(8-9月)	2単位	2年生	4月
ボルボ・グループ インターンシップ		春学期(8-9月)	2単位	3年生 院1年生 ※4年生応相談	4月
グローバル インターンシップ (中期)	中期 2-4ヶ月	2Q(6-9月)	6単位	3年生以上	3月～4月
グローバル インターンシップ (長期)	長期 3-5ヶ月	秋学期(10-3月)	6単位	3年生以上	4月～8月

※実習先は年度・学期により異なる場合があります。また、対象となる学年や実習期間は、実習先により異なります。

詳細はグローバル教育センターの窓口(2号館1F)インターンシップ科目担当までお問い合わせください。

先輩たちの実習内容、印象に残ったこと、実習を終えた感想、後輩に向けたメッセージ、費用(海外実習の場合)などもグローバル教育センターの窓口で随時公開しています。

# 参加へのステップ

自分は残りの大学生活で何を学ぶべきか？自分が大学で学んだ知識や技能を社会でどう活かすのか？インターンシップで何を経験し、今後の大学生活にどう活かしたいかを考えて参加しましょう。

## Step 1

### 情報収集・実習先選択

まずは、Loyola掲示板や、先輩の体験レポートを見て、実習内容を確認しましょう。

## Step 2

### 履修申込

募集時期や履修申込要項はLoyola掲示板でお知らせします。  
必要な書類の準備を進めて、申込期間に提出します。

## Step 3

### 選考

書類選考・面接選考を経て実習先が確定します。

## Step 4

### 事前講義・ガイダンス

担当教員による講義を受講し、実習にあたっての目標や目的を明確にします。ガイダンスではビジネスマナーを身につけます。あわせて、保険加入の手続きや、海外実習の場合は航空券や宿泊先の手配を進めます。

## Step 5

### 実習

いよいよ実習開始です。キャンパスを離れ、現場で新しい経験をたくさんしてください。

## Step 6

### 事後講義

課題レポートを提出します。講義では、実習の振り返りを行い、他の実習先でインターンシップを行った学生と経験を共有します。

# 先輩に聞く 1

## グローバルインターンシップ(短期)

実習先:イオン株式会社グループ人材育成部  
(2019年度春学期参加)

私は2年の時に、早めにインターンシップを経験したいと思っていました。普段の生活や大学での授業で「グローバル化」という言葉は多く耳にしていたものの、私の中での東南アジアといえば漠然としたイメージしかなく、イオン様のインターンシップを選びました。

この実習を通じて経験したことは、イオン様が企業理念を基本として、平和、人間、地域を重視したお客さんへのサービスをいかに大切に、維持しているかということです。実際にイオン様の歴史館をはじめ、品質管理研究所、物流センター、様々な店舗などの現場を視察し、それをより強く感じることができました。さらに、どのように問題解決をするかといったHow思考から、どこに課題があるかといったWhere思考で考えてみる経験にもなりました。

例えば、そのような思考でマレーシアの社会を見てみると、人やモノの国際移動が頻繁に行われている一方で、現地の方が使用するオムツのパッケージに欧米人と思われる子供ばかりが登場しているなど、マレーシアの社会に合わせてローカライズできる部分がまだまだ

## グローバルビジネス分野

KIM KONHAK  
総合人間科学部 社会学科2年



でありそうだと感じました。

この経験から、私は、グローバル社会において企業がローカライズするとはどういうことかということを知りたいと思うようになりました。その国の環境や文化を調査し、人々の行動パターン、文化を分析することによって、どのようにその土地の人々の生活に役立つ商品を企業が提供できるのか、インターンシップの経験を活かして勉強に励んでいきたいと思っています。

## グローバルインターンシップ(短期)

実習先:国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)  
駐日事務所 (2019年度春学期参加)

私は、高校生の頃から海外に出向き国際協力や難民問題に関心を持っていて、上智大学において難民問題に関する学びや経験を得たいと思っていました。総合グローバル学部に入學し、アフリカでのNGOボランティアなども経験してきた中で、国際協力を統括的な目線で仕事にする国際機関でのインターンシップ経験を積みたいと考え、今回UNHCRでのインターンシップ科目への参加を決めました。

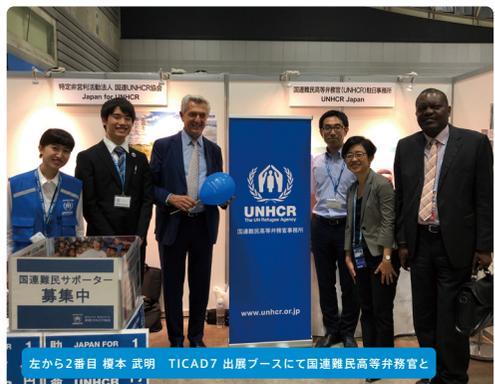
私のインターン先であるUNHCR駐日事務所では渉外部に所属し、難民問題や難民認定に関する最新の情報収集、日本の省庁との事務手続きの補助、難民関連イベントの運営や国際会議(TICAD7)におけるフィリッポ・グランディ国連難民高等弁務官の同行補助などにインターンとして従事しました。

特に、UNHCR駐日事務所のインターンとして国際会議の場に立ち会うことができたのは、私自身、将来国際機関でのキャリアを志す者として、とても刺激的な経験となりました。

今後は、UNHCRにおけるインターンシップ経験で得た学びと経

## 国際協力分野

榎本 武明  
総合グローバル学部 総合グローバル学科2年



験、職員の方から頂いたアドバイスなどを生かして、語学力の向上や途上国における国際協力の現場での経験を積み、自分のキャリアアップに生かしていきたいと考えています。

## 先輩に聞く 2

### グローバルインターンシップ(短期)

### グローバル・ポリティクス分野

実習先: 駐日ブルキナファソ大使館  
(2018年度秋学期参加)

鈴木 清悟  
総合グローバル学部 総合グローバル学科4年

私は、学部3年次の2月1日から15日まで、駐日ブルキナファソ大使館にてインターンシップに参加させていただきました。

西アフリカ地域について専攻し、外交官を目指しつつ民間企業の就職活動にも取り組んでいた私にとって、「ブルキナファソ」「大使館」「インターン」という3つのキーワードはあまりにも魅力的でした。学ぶことが山ほどあると思い、出願させていただきました。

実習中は日替わりで大使館職員の方につき、各役職のお仕事を見学しました。時には日本企業とブルキナファソ政府の調印式に参加させていただいたり、他の大使館への用事に同行させていただいたり、2週間という短期間で外交の現場を五感で知ることができました。

大使館での経験を通して多くを得たことは、特に、私のキャリア形成に大きな影響を与えてくれています。インターンシップ後に外交官として活躍したいという思いを確固たるものとし、外務省専門職試験を受験しました。しかし最終的には、大使館での2週



駐日ブルキナファソ大使館の会議室

間で多様な外交の形を知ったことがきっかけとなり、グローバル企業への就職を決めました。それでも、今後私が歩むキャリアパスに「外交官」という選択肢は在り続けます。ブルキナファソ大使館での経験が、今後も大きな助けとなると確信しています。

### グローバルインターンシップ(短期)

### グローバル・メディア分野

実習先: トムソン・ロイター ブロードキャストソリューション ジャパンデスク  
(2018年度秋学期参加)

江川 茉夢子  
経済学部 経営学科3年

私は大学生活で、何か大きなものにチャレンジしてみたいと思い、このインターンシップ科目に参加しました。私は4週間、米ニューヨークにあるトムソン・ロイターで研修をし、担当してくださった方々に教えていただきながら、生放送の立ち会い、映像の編集、そして取材の同行など、報道の世界を肌で感じることができました。また、ニューヨークソフィア会の方々との交流もあり、貴重なお話を聞くこともできました。研修中特に印象に残ったことは、私が提案した取材先が日本語や英語のビデオとなり、日本国内だけでなく世界に配信されたことです。原稿の作成にも携わることができ、現場を体験する



ことができました。この経験は私の進路に大きな影響を与えました。研修に行くまでは、自分のやりたいことが何なのか明確にはわかっていませんでした。しかし、4週間の研修を通し、私は表



日本とニューヨークを繋ぐ生中継に参加

現者になりたいと強く思うようになりました。多くの人に、自分の言葉や身体で物事を伝えることの素晴らしさ、そして面白さに気づくことができました。今後は自分の目標を達成するべく、スキルを磨き、更にチャレンジし続けたいと思います。

# 先輩に聞く 3

## 経済同友会連携インターンシップ

実習先: 日本航空株式会社 (2017年度春学期参加)

## グローバルインターンシップ(短期) グローバルビジネス分野

実習先: 株式会社ニチレイ (2018年度春学期参加)

大貫 瑞夏 外国語学部 英語学科4年

私は大学在学中にインターンシップ科目を2回履修しました。一度目は2年次の日本航空様での実習、二度目は3年次のニチレイ様での実習です。就職活動に向けて何をしたら良いのか漠然とした不安を抱いていた2年次に、履修要覧の「インターンシップ科目」というページを読んだのがこの科目を知ったきっかけでした。大学で知識を得るだけでは身につかないようなスキルや就業経験、自己分析の機会を得ようと履修を決めました。

それぞれのインターンシップで、企業・業界理解のための講義、オフィスや格納庫、工場などの施設見学、学んだことに基づいてグループワークを行いアイデアを発表するなど、とても貴重で密度の濃い実習をさせて頂きました。実習中の講義でマーケティングや法律に触れたことで興味の幅が広がったり、就職活動に必要な企業情報の集め方や読み方を学んだり、インターンシップ期

間だけでは完結しない学びを得られたことも大きな財産です。

大学が提供する、就職を目的としないインターンシップだからこそ、純粋に教養や知識を得、自分を見つめ直し今後につながる経験とすることができ、結果として就職活動もスムーズに進めることができました。今でも連絡を取り合っている実習先の社員の方やインターンシップ生と出会えたのも、この科目のおかげです。



## ボルボ・グループインターンシップ

実習先: UDトラックス株式会社  
(2018年度春学期参加)

多川 魁人  
理工学部 機能創造理工学科4年

### 1. インターンシップ科目参加のきっかけ

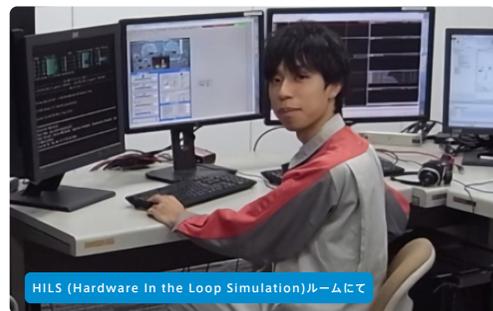
子供の頃から車に興味があり、自動車の根幹とも言える部分であるエンジンを構成する部品の開発や制御システムの設計に携わりたいと考えたからである。

### 2. 実習で経験したこと

私は実習先でアジア諸国向けの大型トラック開発現場に関わった。そこでは、販売を計画している国々の規制や環境に合わせることで、国内向けよりも部品数やコストの削減、それに伴う故障のリスクの軽減、耐久性の向上を図るといった開発手法を学んだ。国内だけでなく国外にも目を向けたグローバルなトラック作りの現場を体験して、人、地域、時代に適合したモノづくりを経験した。

### 3. その後の学生生活・将来にどのような影響を与えたか

実習先ではCADというコンピュータ上で部品を作製できるソフトを用いてエンジンや周りの配線の設計を行っていた。私も大学でCADの講義を履修しており、今実際に学んでいることが企業でも活用されていることを実感できたことで、その後の講義を受けるモチベーションに繋がった。



### 4. 今後の目標

現在は材料科学研究グループに配属され、自身でCADを用いて設計した試験機器を使って研究を行っている。この研究で得たものをインターンシップで学んだ「時代の求めるモノづくり」に役立てていきたい。

# 先輩に聞く 4

## グローバルインターンシップ(中期)

実習先: ジオメトリー・オグルヴィ・ジャパン  
(2019年度第2クォーター参加)

蔣 馨  
国際教養学部 国際教養学科4年

1年留学の終盤に差し掛かった頃に帰国後のプランを立て始め、就活に入る前にインターンシップを経験したいと思い、帰国前からインターンシップ先を探し始めました。そんな時、グローバル教育センターから中期インターンシップの案内が届き、バイリンガルでマルチカルチャーな職場だと感じたジオメトリー・オグルヴィ・ジャパンへ応募しました。

インターン先では戦略プランナーのメンターからご指導を頂きながら、インターンプログラムの一環として用意された課題に取り組みながら、様々なバックグラウンドを持つインターン生と共に働きました。同時に、部署内外からサポートワークを頼まれる事があり、それらのタスクも自分一人で取り組むのではなく、インターン生複数人で話し合いながら仕事を分け、取り組みました。このプログラムへ応募しなければ出会うことのない同期やプロフェッショナルと話し、共に働けた事が大事な経験になりました。

現在は就職活動中で、他の就活生のように不安の中にいますが、インターンシッププログラムを通し、自分のやりたいこと、出来る事、

将来へのビジョン、就活をする上での軸に気づき、構築出来たと感じています。これらの発見は、残りの学生生活や就活のみならず、社会人として生きていく中で自分の中でブレはないか、あるいは変わった軸など、自分を振り返る時の基準にもなると思います。



## グローバルインターンシップ(長期)

実習先: 智利三菱商事株式会社  
(2017年度秋学期参加)

阿部 洋菜  
国際教養学部 国際教養学科 2019年度卒業

私は元々インターンシップではなく、語学学習のためにスペイン語圏への留学を検討していましたが、何を勉強したいのかわからなかったため、行動に移せずに大学2年次を終えました。そろそろ進路を考え始めようと思い、LOYOLAの掲示板に智利三菱商事のインターンシップの募集を見つけ、スペイン語圏の日系グローバル企業海外拠点での働き方に興味をもち、応募したのがインターンシップに参加させていただいたきっかけです。7ヶ月の実習で経験したことは、主に社長の事務を担当する総務部での駐在員のサポートです。オフィス内の8割が現地社員であるため、オフィスはスペイン語が飛び交い、語学も同時に学びたい私にとっては一石二鳥の環境でした。駐在員のサポートといっても、実際に日本から出張訪問する方へ向けた治安喚起や、チリ滞在には欠かせないワインのガイドブック作成にあたる現地調査、様々なプロジェクトに携わることができ、学生時代におけるかけがえのない経験となりました。またこのような海外拠点で働く「グローバル人材」の実態を知ることができ、決して日本ではできない環境にいられたと思います。7ヶ月間のインターンシップに対しては全く後悔はなく、自分の就職活動における軸を

固めることができたので、本当に参加して良かったと心の底から思います。

社会人として皆さんにアドバイスできることは少ないですが、学生であるう

ちにしかできない経験が山ほどあるということは事実として断言できません。私もインターンシップに参加する前は自分の将来を立ち止まってじっくりと考えたり、誰かに相談したりといった機会は全くありませんでした。私が就職を得て、何より大切だと思ったのは、社会の決めたタイミングではなく、自分のなりたい将来像や、自分では譲れない軸を固めて、自分のタイミングで就職活動に挑んだり、日々の生活に労力を費したりすることです。時には自分の居心地の良い環境だけにいるのではなく、多少の冒険をして、様々な人に話を聞く機会を増やすことをお勧めします。



中央 阿部 洋菜 お世話になった総務部の皆さんと

# 担当教員からのアドバイス



## 国際協力分野で働くための第一歩として

グローバルインターンシップ  
国際協力分野、グローバル・ポリティクス分野担当  
グローバル教育センター教授 浦元 義照

学校の授業で習得する知識も重要だが、実際に体験にしてみることの大切さは言葉では言い尽くせない。実は私の40年近くに及ぶ世界120カ国での経験は、未だ知らない世界へ自分を投げ込んで体で学ぶ事の連続だった。長い人生から見ればインターンシップの連続だったような気がする。

体験した事は、知識のレベルを超えたところで体が覚えることである。体で覚えることで魂を揺るがす事もあるだろう。インターン先はどこであろうと実社会だ。そこには上司も同僚もいる。仕事を任せられる。嫌なこともあるだろう。しかし大学を卒業したら実世界だけだ。

インターンシップ科目では、2年生から卒業後の社会を実際に体験できる機会を設けている。単位を取りながら現場体験もできるこのプログラムの実習先は、国連及び政府系機関、企業、非政府機関、研究機関、国内の大使館等、国内外に広がっている。将来の自分のキャリアについて考える素晴らしい機会だと思う。

以下に、このインターンシッププログラムに応募した学生の声を引用する。「SDGsなど国際公益の実現に貢献する国際機関での仕事を体験したい。」「民間の貿易会社がどういった国際協力を実現しているのか?」

ぜひ奮ってインターンシッププログラムに参加してほしい。インターンで経験を積んで実社会へ行こう。その後も体験は続く。体全体で体験しよう。きっと実世界で役にたつだろう。

1978年より国連(UNICEF, UNIDO, ILO)にて36年間にわたりアジア太平洋地域、アフリカ、ヨーロッパ、米国の10カ国で社会経済開発に従事。元ILO事務次官補・アジア太平洋地域統括局長。上智大学外国語学部卒。ハーバード・ケネディスクールで行政学修士。ハーバード・ビジネススクールで「Leading Change and Organizational Renewal」コース修了。近年の研究に2014年のILO/ADB (ASEAN Community 2015)や2018年の「Corporate Governance & Sustainability of Global Value Chains: Bangladesh RMG Industry」がある。



## インターンシップへの誘い

グローバルインターンシップ グローバルビジネス分野  
経済同友会連携インターンシップ担当  
グローバル教育センター教授 日比谷 武

実践者として企業や経済同友会で活動、国の内外各地で様々な文化・歴史や価値観に触れ、刺激を受け、多くを学びました。長い人生では、喜びも、多くの困難もありました。

ご縁が育ち、今、上智という素晴らしい「学びの場」で、将来を担う皆さんと対話を通して共に学びあう「半教半学」の日々を心から楽しみ、とても感謝しています。

活動を通して得た結論は、「人生は出会いと学びの旅」。人は誰もが、様々な仕事や人々、古典や名著と出会い、対話することで成長し続ける素晴らしさを持っていると確信します。

さらに、教養の大切さ、「教養は生きる力となり、人生の困難期の心の支えとなる」。全ては自分の心が決める。自分と未来は変えられる。

いづれ社会人になって「他者と共に、他者のために」己の最善

を尽くしきることで、人間的に成長し続ける。それが結果として一人ひとりの「いい人生」につながれば素晴らしい。

自らが主体的に様々な「場」に参画し、沢山の刺激と学びを得る。未来を切り拓くためにインターンシップを通して新しい世界を知り更なる学問の追究と躬行実践を期待します。

富士ゼロックス株式会社に人事やCSRの役員、監査役を歴任。元同社社長・経済同友会代表幹事小林陽太郎氏の内外の活動を補佐。日本アスベンの設立・運営に参画。現在、経済同友会幹事、文科省大学審議会委員。

# 実習先のご担当者からのメッセージ

## 経済同友会連携インターンシップ実習先

全日本空輸株式会社

人事部 ANA人財大学 業務推進・採用チームマネージャー  
植野 功一様



1952年、戦後の混乱が続く中、国内航空産業の復興を目指しヘリコプター2機からスタートした我々ANAは、その後の日本とともに様々な努力と挑戦を経て成長を遂げてまいりました。そして1986

年には悲願であった国際線定期便の就航を開始し、今日では年間6000万人以上にご利用いただく世界でもトップクラスの航空会社へと変貌を遂げました。

ANAがここまで成長を遂げた背景には、先に述べたとおり日本という国そのものの成長があったと言えますが、さらに言えばそれを支えてきた「人」こそが今日に至る成長の最も大きな原動力であり、これからも変わることのない大切なファクターと考えております。

これまで様々なプログラムにご参加いただきましたが、いずれのプログラムでもご参加いただいた方々の成長を目の当たりにしています。やはり、実体験で得られる価値に勝るものはないと実感するとともに、受け入れる我々自身にとっても若い世代の考え方や価値観に触れることは大きな刺激となっています。

今後も、これからの担う世代の成長を産学連携して後押ししていくことは企業における最も大事な社会への責務の一つであると考え、我々にしかできない価値ある体験を提供したいと思います。

## グローバル・インターンシップ(長期)実習先

認定NPO法人ACE(エース)

代表  
岩附 由香 様(1997年度卒業生)

ACE(エース)は世界に1億5200万人といわれる児童労働の撤廃を目指すNGOです。10年前から独自のインターン制度がありますが、今回プログラムに初のNGOとして参加し、現在週2回のインターン生を受け入れています。

インターン生には担当スタッフがついて業務内容の指示と調整をしますが、まかされる業務、関わる人は多様です。例えば、イベントの準備と当日運営サポートや、アンケート集計などデータを取り扱う仕事から、企業などのお客様の対応まで。「学生の立場では体験できないことができる」「自分の関心のある内容に触れながら、どの企業にも通じるスキルが身につけられる」との感想をもらっています。ACEにとってもインターン生は貴重な戦力になっています。

スタッフは女性が多く、データはクラウド化され、在宅勤務OK、オンライン会議が日常の職場です。出産、子育てなどをしながらの働き方の参考にもなるかもしれません。ACEは「子ども・若者が自らの意志で人生や社会を築くことができる世界」の実現をパーパスに



掲げています。このインターンシップがご本人のキャリアや、社会の在り方のビジョンを描く参考ときっかけになれば、幸いです。

## インターンシップ科目 Q&A

### Q 就職活動のインターンシップとの違いは何ですか？

A 選考の一環として実施されるインターンシップと違い、インターンシップ科目では就業・実務経験を通じて、参加者自身が「残りの学生生活で何を学ぶべきか」「大学で学んだ知識や技能を社会の中でどのように活かすのか」といった気付きや経験を得ることを目的としています。

### Q 先輩の体験談をもっと読みたいです。

A グローバル教育センター窓口にお越しください。今までの派遣生による、実習内容、感想、参加を考へる方へのメッセージ、費用(海外実習の場合)が記載された体験レポートを公開しています。

### Q 履修できるのは在学中1回だけですか？

A ひとつの実習先で参加できるのは一度限りですが、異なる実習先や期間を選んで何回でも申し込むことができます。複数回インターンシップを経験した先輩も沢山います。

### Q 海外実習の場合、フライトや宿舎は用意されているのですか？

A これまでの派遣生が利用した宿泊先リストや体験レポートを参考にしながら、各自の予算に合わせて自分で手配します(一部実習先は異なります)。この段階からインターンシップへの参加が始まっています。なお、費用は原則として自己負担となりますが、条件が合えば奨学金を申請することができます。

### Q 実習先はどのような企業・機関がありますか？

A グローバルインターンシップでは、上智大学が独自に提携を結んだ企業・機関でインターンシップを行います。国連機関の駐日事務所や、グローバル企業、通信社の海外支局など様々な実習先があります。

経済同友会連携インターンシップは、経済同友会との産学協働による人材育成、キャリア教育の推進を目的としたプログラムで、賛同する企業より実習の機会が提供されます。

ボルボ・グループインターンシップは、世界で展開するボルボグループのAcademic Partner Programのパートナーである上智大学の学生に対し、傘下のUDトラックス株式会社より様々な部門でのインターンシップが提供されます。

### Q 事前講義や事後講義ではどのようなことをするのですか？

A 事前・事後講義は科目、分野ごとに担当教員が行います。異なる実習先の派遣生が集まり、事前講義では、実習先を取り巻く環境や事業内容に対する理解を深め、参加目的を再認識します。事後講義では、経験を共有しあうとともに、実習の振り返りを行います。

### Q 英語ができないと応募ができませんか？英語以外の語学を活かせる実習先はありますか？

A 英語の語学要件が指定されている場合もありますが、多くの実習先では要件なく参加ができます。また、フランス語、スペイン語、中国語等を活かせる実習先もあります。Loyola掲示板に掲載されている過去の募集要項を参考にしてください。



上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

編集・発行 グローバル教育センター  
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 2号館1階  
<https://www.sophia.ac.jp/>  
🐦 [twitter@Sophia\\_GoGlobal](https://twitter.com/Sophia_GoGlobal)

2020年6月発行